

## 令和4年度 県アレルギー疾患医療拠点病院事業計画

|     |                |
|-----|----------------|
| 病院名 | 神奈川県立こども医療センター |
|-----|----------------|

## 1. 病院相互の連携及び診療連携体制の構築について

| 令和4年度 事業内容等  | (参考) 令和3年度事業<br>実施状況、実績見込等   |
|--|--|
| <p>アレルギーセンター長による施設に対するヒアリングを継続する。地域連携についてシステム構築（外部施設によるカルテ閲覧システム）の説明を行い、より親密な地域医療連携構築に努める。特に、小児科単科以外の診療所への訪問に勤める。目標訪問数：20 施設</p> <p>オンライン研修の有用性を把握すること出来たため、Zoomの有料契約を継続し、アレルギー疾患の対応方法について、「こども医療センター 夏季セミナー」「神奈川県立こども医療センター地域医療支援事業研修会」を地域医療機関に対してオンラインで配信する。</p> | <p>アレルギーセンター長が地域の医療機関訪問を直接訪問し、アレルギー診療内容、患者数、対応などについてヒアリングを行い、一般診療における課題について調査を行っている。コロナウィルス感染の影響もあり、令和三年度の施設訪問数は、9 施設だった。その中でも、小児科単科よりも、他科を主として標榜している診療所において、アレルギー対応に苦慮している現状が把握できた。</p> <p>医師向けの講演会は、9月5日に「アレルギー外来診療のポイント」というテーマを医師向けに zoom にて配信を行った。</p> |

## 2. 患者やその家族、地域住民に対する適切な情報の提供

| 令和4年度 事業内容等   | (参考) 令和3年度事業<br>実施状況、実績見込等  |
|---|---|
| <p>神奈川県立こども医療センター主催の県民向けの講演会を主催する（オンライン配信予定）。</p> <p>ホームページについては、厚生労働省の「アレルギーポータル」へのリンクを作成しているが、当科受診患者にこちらのサイトを参照するようにする案内を配布予定である。</p> | <p>病院ホームページを改定し、紹介受診してからの患者が受ける治療について流れについて解説する説明を付記した。</p> <p>厚生労働省の「アレルギーポータル」へのリンクを作成し、より正確な知識普及に努めている。</p> <p>皮膚のスキンケアについてのパンフレットを“未病改善“の一貫として神奈川県と作成した。</p> <p>ラジオ(FMヨコハマ)にて、花粉症に対応法について配信を行った（2022年1月22日）。</p> <p>「アトピー性皮膚炎 正しい知識と適切なケア 乳幼児から始めるスキンケア」をオンラインで配信予定としている（2022年3月20日）。</p> |

### 3. 医療従事者や保健師、栄養士、教職員等に対する研修等

| 令和4年度 事業内容等  | (参考) 令和3年度事業<br>実施状況、実績見込等   |
|--|--|
| 2022年度の医師、またはエデュケーターによる保健師、栄養士、教職員等に対する研修は10件を目標としている。 | 2021年度の研修件数は6件だった。開催数はコロナ感染症発生前より減少している。オンラインでの開催も可能なことを関係各所への周知に努める |

### 4. 県内のアレルギー疾患の実情を把握するための調査等

| 令和4年度 事業内容等   | (参考) 令和3年度事業<br>実施状況、実績見込等 |
|---|----------------------------|
| アレルギーがどのように乳幼児・その保護者の生活を障害している状況を健診の間診票を通じて把握する予定である。 | 実績なし                       |

### 5. 学校等に対する医学的見地からの助言等

| 令和4年度 事業内容等   | (参考) 令和3年度事業<br>実施状況、実績見込等   |
|---|--|
| 今年度は、一部自治体だけではなく、全体を管轄する県の教育委員会を通じて、統一した食物アレルギーの対応を図ることを検討し、令和2年度に策定した基本指針を元に対応を検討していく。 | 給食対応を含め、対応方針の基本的な指針を策定し、それにも基づいて対応している。<br>1年ごとに血液検査結果を提出させているなどのガイドラインから逸脱している指導を行っている施設に助言を行った(2施設)。 |

### 6. その他の事業(任意記載)

| 令和4年度 事業内容等   | (参考) 令和3年度事業<br>実施状況、実績見込等  |
|---|---|
| アレルギー中心拠点病院が行っている研修「アレルギー研修(B研修)」によって習得した内容を地域医療機関にも共有するため、院外に向けて研修内容報告書を通知予定である。 | アレルギー中心拠点病院が行っている研修「アレルギー研修(B研修)」に医師を1名が参加し、成育医療研究センターにて2週間の研修に参加した。<br>病院内で研修内容を共有し、診療に活かしている。 |

7. 県拠点病院としての取組について（年度ごとの取組にかかわらず記載してください。）

＜ペットアレルギーに対する治療＞

県内犬の登録頭数は平成 13 年度 339,266 頭だったが、平成 28 年度には 469,491 頭と 15 年間で約 1.4 倍に増加している。当施設ではペットアレルギーに対して臨床研究としてイヌ・ネコアレルギーを用いたアレルギー免疫療法を施行していた。その治療効果について現在集計検討し、ペットアレルギー対策を提示できることを目指している。

＜アレルギー児に対する食事指導＞

2018 年 4 月より当院では、卵、牛乳アレルギー児、あるいは検査によりアレルギーが強く疑われる児に対して、卵そのものや牛乳そのものから少量ずつ摂取するのではなく、強い加熱処理が行われた食材 (baked egg, baked milk) から摂取を進めていく Egg Ladder, Milk Ladder という食事指導を行っている (資料 7)。導入 4 年となり、導入前後での患者の状態を把握し、この食事指導方法の長所・短所を検討している。